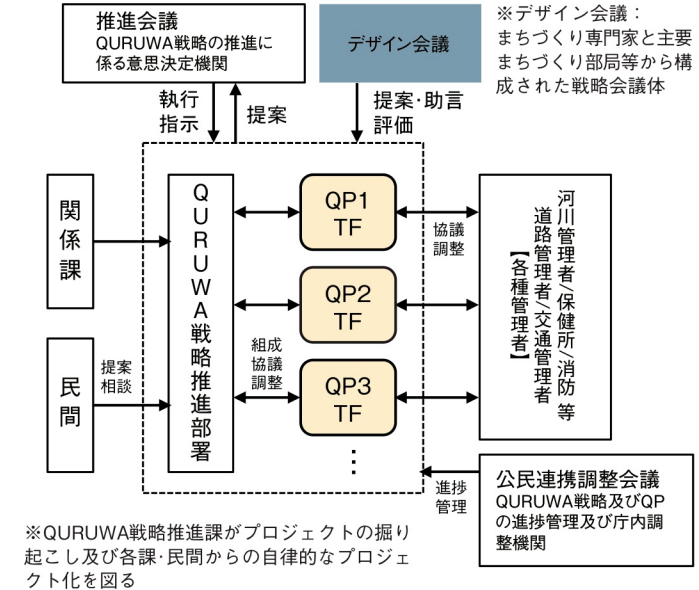


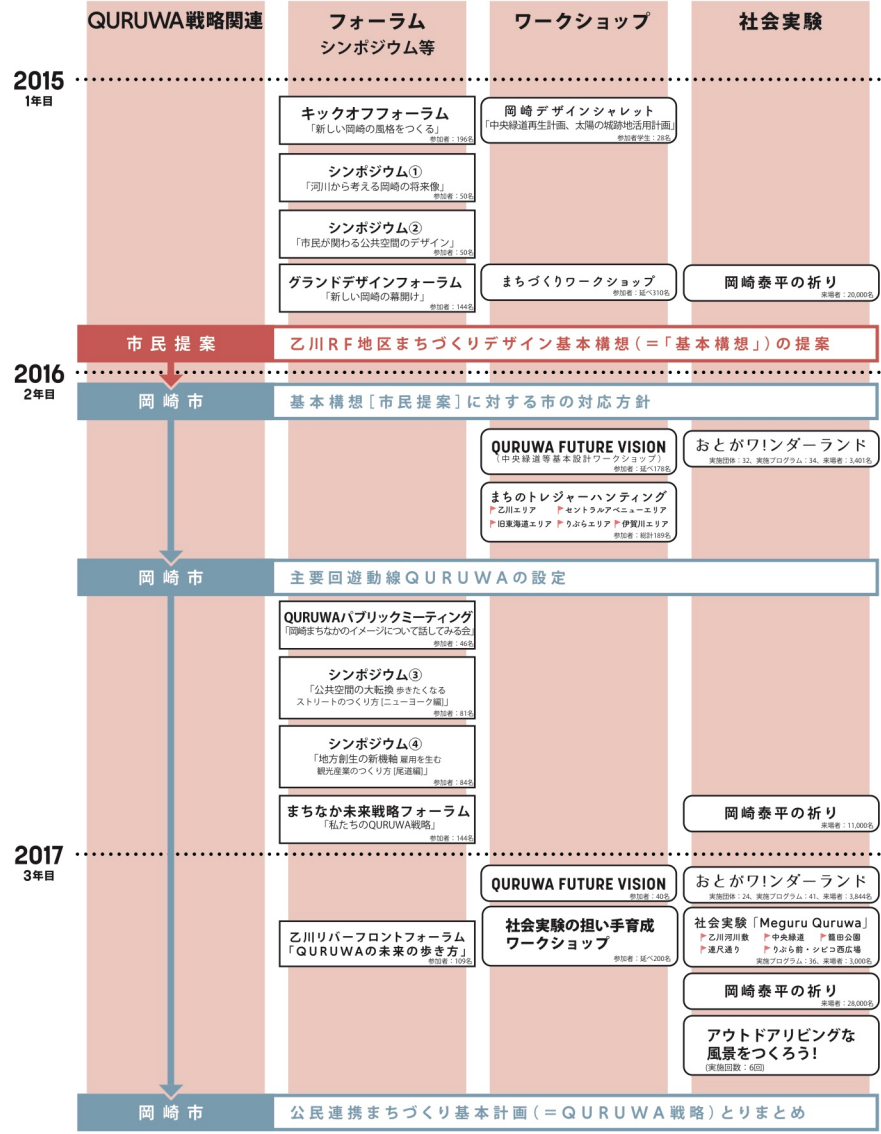
推進体制

推進会議の執行指示のもと、QURUWA 戦略推進部署がプロジェクトの掘り起し、プロジェクト化を図ります。

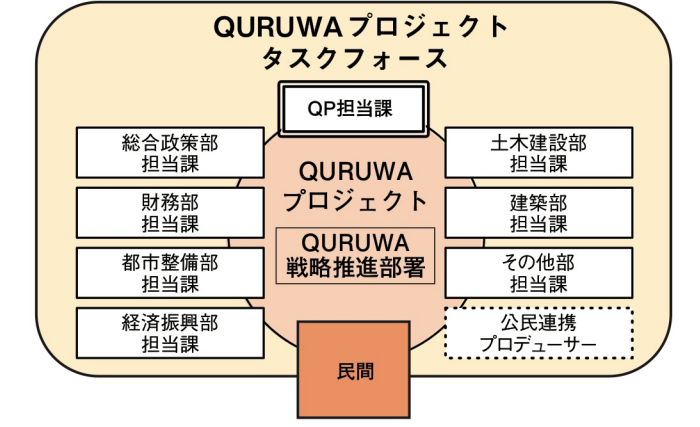


QURUWA 戦略ができるまで

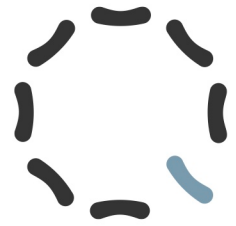
平成 27 年度から取り組んできた「まちづくりワークショップ」、「まちのトレジャーハンティング」等の市民ワークショップでのまちづくり提案を受け、「おとがワ！ンダーランド」、「めぐる、QURUWA」等の社会実験を行ってきました。これらを踏まえ、乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画「QURUWA 戦略」を取りまとめています。



各 QURUWA プロジェクトの事業化を加速させるために、各 QP 担当課が主体となって部署横断のタスクフォースを編成し、進捗状況に応じて民間も加え、各 QP の戦略立案や調整を行います。

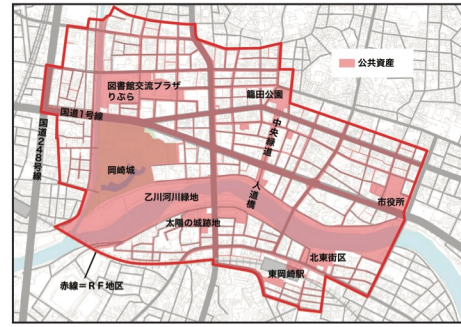


※公民連携プロデューサー：公民サービスを民間事業として質を高めつつ転換し、持続可能とするために不動産事業のビジネスに仕立てる役割を担う。

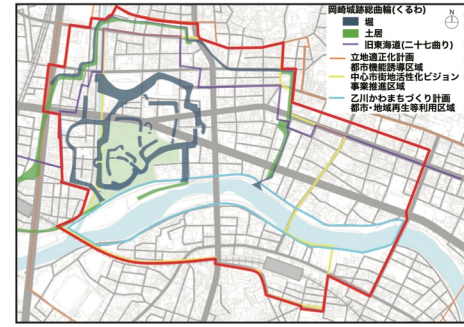


乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画 - QURUWA 戦略 - 【概要版】

RF 地区とは



RF 地区（約157ha）の約半分を占める河川、道路、公園などの「公共資産」を活かしたまちづくりを推進。

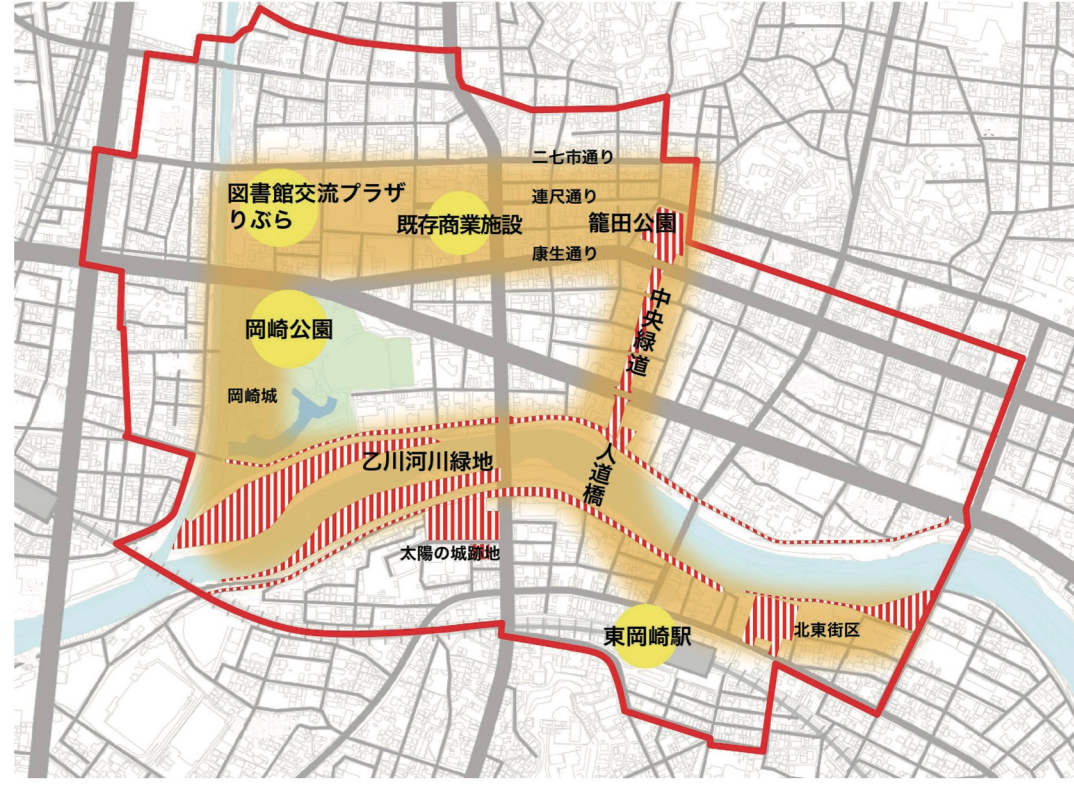


RF 地区は岡崎城跡や中心市街地を含み、都市機能誘導区域などの位置づけがある。



RF 地区の東西・南北軸への公共投資を行い、既存の集客拠点及び交通結節点を接続。

QURUWA（くるわ）とは



RF 地区の多様な魅力を味わうことができる約3 km のまちの主要回遊動線。名鉄東岡崎駅、乙川河川緑地、(仮称) 乙川人道橋、中央緑道、籠田公園、りぶら、岡崎公園など公共空間の各拠点を結ぶ主要回遊動線。かつての岡崎城跡の「総曲輪（そうぐるわ）」の一部と重なること、また、動線が「Q」の字に見えることから、「QURUWA」と命名。

QURUWA 戦略とは

R F 地区内の豊富な公共空間を活用して、パブリックマインドを持つ民間を引き込む公民連携プロジェクト（QURUWAプロジェクト）を実施することにより、

その回遊を実現させ、波及効果として、まちの活性化（暮らしの質の向上・エリアの価値向上）を図る戦略としています。

市の都市経営状況 ・経済縮小（雇用・所得減） ・生活環境の悪化 ・税収減少 ・歳出増大	▶	RF 地区の経営課題 ・康生地区の衰退 ・高齢化の進展 ・まちの魅力の希薄化 ・働き方・雇用の多様性の欠如	▶	RF 地区まちづくりの目的 これからの 100 年を暮らすまち - 新しい住み方・働き方・遊び方を楽しむ - 公民連携により市民・来街者に新たな交流・体験を通じた「良質な都市空間を楽しむ日常」と「暮らしやすいまち」の創出、観光産業都市の創造を図ります。
--	---	--	---	---

公民連携まちづくりの必要性 ・財源が限られる中、都市経営の自立・継続と豊かな公共の実現が課題になっています。 ・地域課題の解決を進めていくには、民間の巻き込みが不可欠です。		民間主導の公民連携まちづくり ・公民連携で、公共サービスの質の向上等の「α」が実現するか否かは、行政が選んだ民間パートナーに大きく影響されます。	公民連携まちづくりの導入 行政と民間が志と責任・権限を持ち役割分担をしながら連携し、地域が抱える多くの課題を解決するとともに、公共サービスの受益最大化を図ります。
--	---	--	--

行政

ビジネスしやすい環境の整備

- ・ 部署連携・関係機関連携
- ・ 規制緩和・制度改正・運用改善
- ・ 公共施設・空間の活用・開放
- ・ 官民フラットな場づくり 等

行政の継続性リスクへの対処

- ・ デザイン会議設置による公民連携と都市デザインのコントロール
- ・ QURUWAプロジェクトタスクフォース（部署横断の体制）
- ・ 全体及び個別の活動をつなぐQURUWA戦略推進部署の設置

民間

公民連携の主な担い手は、公共性・公益性及び事業性を兼ね備えた「事業者市民」。社会的企業・NPO、ボランティア団体・自治会、企業等もこの担い手として重要。

事業者市民と連携することで、公共サービスの受益を最大化するイメージ図

1 拠点の設定
QRUWA上徒歩 5 分圏内の既存
集客施設と公共空間に拠点を設定

2 拠点間動線の設定
QRUWA上の拠点をつなぐ拠点
間動線を設定

3 主要回遊動線の実現
各拠点・拠点間動線上において公民連携プ
ロジェクト（QRUWAプロジェクト）を
実施することで回遊を実現

4 エリアへの波及
波及効果でエリア全体の価値・暮ら
しの質が向上

5 エリア外周辺への波及
RF 地区公民連携まちづくりの波及効果に
よって、周辺エリア価値・暮らしの質が向上

PRE 活用

QP⑥PPP 活用拠点形成事業
(暫定駐車場)
ブルムナード、リブら東第2駐車場等を活用したりぶらと街をつなぐ広場機能の導入と交通結節点化

道路空間再構築
QP⑦道路再構築事業
まちのための道路(=街路)として、道路空間の利活用と再構築

※QP：KURUWA プロジェクト

既存拠点
新規拠点
拠点間動線
主要回遊動線 KURUWA

パークマネジメント
QP⑤PPP 活用公園運営事業
(籠田公園・中央緑道)
籠田公園では日常的に多様な使い方を、中央緑道では暮らしの質の向上を実現する公園運営

パークマネジメント
QP②PPP 活用公園運営事業
(中央緑道・かわしん跡地)
便設施設の設置管理等と人道橋を含めた一体的な橋詰広場の形成

PRE 活用
QP①PPP 活用拠点形成事業
(太陽の城跡地)
ホテル、コンベンション・バンケット、リバーベースの一体的整備による来街者の滞在・活動と市民が都市空間を楽しむまちづくり拠点の創出

PRE 活用
QP③PPP 活用拠点形成事業
(北東街区)
北東街区を核にした、民間主体のペDESTリアンデッキ・河川空間の一体的活用

かわまちづくり
QP④乙川かわまちづくり事業
地先と河川空間の民間主体による一体的活用と街へつながる魅力的な景観形成

りぶらエリア
図書館交流プラザ りぶら
岡崎公園
伊賀川・岡崎公園エリア
中央エリア
籠田公園西エリア
二七市通り
連尺通り
康生通り
中央緑道
人道橋
セントラルアベニューエリア
東岡崎駅
東岡崎駅エリア

